

第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

デイリー・ジーザス・ニュース # 123

3. 奇跡その23：イエスは4000人の異邦人に食事を与える

MK 8.1-10 (並行テキスト：MT 15.32-39)

1 そのころ、また大勢の群衆が集まってきた。食べるものがなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて言わされた。

2 「私はこれらの人々に同情を覚えます。彼らはすでに三日間私と一緒にいるのに、今は何も食べるものがありません。私は彼らを空腹のまま家に帰らせなさい。彼らの中には遠くから来た者もあり、途中で空腹で倒れる者もいるからである。」

4 弟子たちは答えた。「しかし、こんな辺鄙な所で、これほど大勢の群衆に食べさせるほどのパンをどこで手に入れることができましょうか。」

5^M 「パンはいくつありますか？」とイエスは尋ねました。

「7人です」と彼らは答えました。

6 それからイエスは群衆に地面に座るように言されました。七つのパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、それを裂き、弟子たちに渡して人々に配らせました。弟子たちはそれを群衆に渡しました。（7小さな魚も少し残っていたので、イエスはそれを祝福して、弟子たちに配るように言されました。

8 人々は満腹になるまで食べた。その後、弟子たちは残ったパンくずを七つの籠に集めた。9 約四千人の^{MT}の男たちが^Mが出席し、^{MT}のほかに女性と子供たちも出席しました。

彼らを解散させた後、イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り、ダルマヌタ地方のマガダンへ渡られた。

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ =^{MT}、マルコ=^M、ルーク=^L、ジョン=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。また、イエスの言葉は赤のイタリック体で表記されます。旧約聖書からの引用は大文字で表記されます。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ湖の南東にあるデカポリス地方
タイムライン	5月～6月（27月または28月）
イエスの生涯の背景	第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

	A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへ そして異邦人のデカポリスに戻る
タイトル	3 奇跡その23：イエスは4000人に食事を与える

コメント：

数ヶ月にわたる過酷な旅と伝道の旅の後、イエスはガリラヤへの第三巡回の終わりに使徒たちを「ここに来て、しばらく休むように」と召されました。使徒たちは肉体的にも精神的にも再生を必要としていただけでなく、イエスが彼らに明らかにしてくださるさらなる教訓を学ぶために、伝道の経験についてイエスと話し合う必要がありました。しかし、ベツサイダの大群衆が介入し、イエスは結局5000人に食事を与えられました。彼らの黙想の時間は延期されました。

ティルス、シドン、そしてデカポリス地方へと北上する長い旅路を、おそらく6週間ほどイエスと共に過ごしていた。彼らは群衆と交わるのではなく、イエスと二人きりで過ごした。これは、ガリラヤから数ヶ月間引きこもっていた時の典型的な様子だった。

イエスは約2か月前に5000人に食事を与えました。それは主にユダヤ人の群衆でした。今、異邦人の地域の中心で、イエスはまたしても大勢の人々に、壮大で奇跡的な方法で食事を与えました。この二度目の食事の奇跡には、いくつかの対照的な点が際立っています。

まず、この奇跡は肉体的に切実なものでした。5000人の場合、イエスと大勢の群衆はベツサイダや、ガリラヤ湖北岸のカペナウムなどの町の近くにいました。人々はこれらの町で食料を得るために遠くまで行く必要はありませんでした。彼らはイエスと共に過ごしたのはたった一日だったので、食料の不足はそれほど深刻ではありませんでした。

しかし、デカポリスの場所はより辺鄙な場所にあり、人々はイエスと共に三日間過ごしていたため、すでに食料は底をついていました。主は、食料が手に入る場所に戻る前に、多くの人が灼熱の暑さで飢えに倒れてしまうのではないかと心配されました。食料の不足は切迫していました。

第二に、イエスは5000人に最初に食事を与えるという奇跡において、弟子たちを試し、教えようとされました。イエスは弟子たちを第三回ガリラヤ巡回で信仰によって生きるよう遣わし、彼らはちょうどイエスのもとに集まつばかりでした。イエスは、彼らが第三回巡回でイエスの賜物と権威によって仕えたように、信仰を働かせてイエスの資源を通して群衆を養うことを期待していました。第三回ガリラヤ巡回における奉仕の原則、「あなたがたはただで受けたのだから、今度は惜しみなく与えなさい」は、イエスが彼らに群衆に食事を与えるように命じられたとき、まさにその通りに当てはまりました。弟子たちを教えたいというイエスの願いのこの側面は、この第二回食事の奇跡においてはあまり顕著ではありません。

最後に、そして最も重要なのは、この4000人に食事を与えたことが、イエスの慈悲を特に際立たせていたことです。イエスは奇跡の冒頭で、人々への深い同情について語られました。飢えによる人々の衰弱と、砂

第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカボリスへの帰還

漠の荒廃した環境を意識することで、イエスは彼らへの深い思いやりを育まれました。道中で飢え死にしてしまったら、彼らの体を癒しても何の役にも立たないので。しかも、イエスの足元に集まっていたのは、主に異邦人でした。

この事実は、イエスが無条件の愛をもって人々の必要を満たしてくださった恵みと慈悲の深さをさらに強調するものでした。イエスは、耳の聞こえない男を癒したのと同じ慈悲、そして三日間の宣教活動の間、イエスのもとに連れて来られた多くの人々を癒したのと同じ慈悲をもって、これらの困窮している人々に食物を与えました。

思いやり。恵み。慈悲。愛。これらの神の特質は、4000人に食事を与えることを通して明らかにされました。

応用：

イエスは私たちにこう祈るように教えられました。「今日の糧となるパンをお与えください。」4000人に食事を与えるという出来事は、神がイエスを通して私たちの肉体的、精神的な必要を満たしてくださることを私たちに思い出させます。それが神の本質だからです。神は想像を絶するほど慈悲深い方です。なぜなら、三位一体は愛だからです。

私たちは、自分の功績によって神から何かを得るにふさわしい者となることは決してありません。しかし、神は4000人に食物を与えたのと同じように、私たちにも日々の糧を与えてくださいます。

ヘブル人への手紙の著者は、キリストの慈悲深い性質を知ることによって、私たちは祈りを通して悩みや心配事を主に委ねるべきだと教えています。これは、私たち一人ひとりにとってこの聖句が完璧に当てはまる聖書的な解釈です。

「ですから、私たちは、天に昇られた偉大な大祭司、神の子イエスがおられるのですから、私たちは告白する信仰をしっかりと保ちましょう。私たちの大祭司は、私たちの弱さに共感できない方ではなく、私たちと同じように、あらゆる点で試されながらも罪を犯さなかつた方です。ですから、私たちは、恵みの御座に、あわれみを受け、恵みによって、必要なときに助けを得られるように、信仰をもって近づこうではありませんか。」ヘブライ人への手紙 4章12-13節 (NIV)

今日は、イエス様にどんな必要を持ちかけますか？